

# ASIA Indicators

定例経済指標レポート

## 台湾、先行きの輸出は堅調が続く(Asia Weekly (9/20~9/24))

～年後半に掛けては緩やかな調整の可能性も～

発表日: 2010年9月27日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

### ○経済指標の振り返り

| 発表日      | 指標、イベントなど                    | 結果      | コンセンサス  | 前回      |
|----------|------------------------------|---------|---------|---------|
| 9/20 (月) | (タイ) 8月輸出 (前年比)              | +23.9%  | +23.5%  | +20.6%  |
|          | 8月輸入 (前年比)                   | +41.1%  | +39.1%  | +36.1%  |
|          | (台湾) 8月輸出受注 (前年比)            | +23.30% | +20.70% | +18.23% |
| 9/21 (火) | (香港) 8月消費者物価 (前年比)           | +3.0%   | +3.1%   | +1.3%   |
| 9/22 (水) | (マレーシア) 8月消費者物価 (前年比)        | +2.1%   | +2.0%   | +1.9%   |
| 9/23 (木) | (ニュージーランド) 4-6月期実質 GDP (前年比) | +1.9%   | +2.5%   | +1.9%   |
|          | (前期比/季調済)                    | +0.2%   | +0.7%   | +0.5%   |
|          | (シンガポール) 8月消費者物価 (前年比)       | +3.3%   | +3.3%   | +3.1%   |
|          | (台湾) 8月失業率 (季調済)             | 5.11%   | 5.13%   | 5.17%   |
|          | 8月鉱工業生産 (前年比)                | +23.40% | +21.60% | +20.93% |
|          | 8月商業販売額指数 (前年比)              | +6.34%  | +8.80%  | +9.26%  |
| 9/24 (金) | (シンガポール) 8月鉱工業生産 (前年比)       | +8.1%   | +11.7%  | +9.9%   |
|          | (前月比/季調済)                    | ▲6.3%   | ▲2.8%   | +1.5%   |

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

### 【台湾】～先行きの輸出の堅調は示唆されるも、今後は緩やかな調整圧力が見込まれる～

20日に発表された8月の輸出受注は、前年同月比+23.30%と前月(同+18.23%)から伸びが拡大した。輸出全体の約3分の1を占める中国本土向けが堅調なことに加え、欧米先進国向けも底堅く推移し、増加基調が続いている。実質ベースでも前年同月比+18.04%と、前月(同+11.54%)から伸びが拡大し、前月比も+2.3%と前月(同▲1.4%)まで2ヶ月連続の減少から増加に転じた。欧米先進国向けのみならず、中東やアフリカなど新興国向けが大幅に伸びたことが貢献した。足元の輸出は、中国経済の減速などで頭打ち感が出ていたが、先行指数が堅調に推移していることから、今後も底堅さが続くことが期待される。

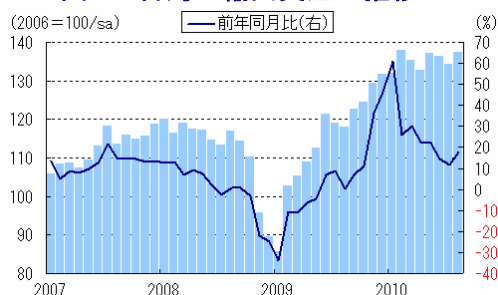
23日に発表された8月の鉱工業生産は、前年同月比+23.40%と前月(同+20.93%)から伸びが拡大し、前月比も+0.8%と前月(同▲0.5%)から増加に転じた。同国の鉱工業生産指数は、製造業部門のウェイトが全体の9割以上を占め、特に半導体など電子部品関連が中心となっている。足元における同分野の在庫・出荷バランスは大きくピークアウトしてマイナスとなるなど、在庫水準は過去最高となっているが、依然出荷が堅調に推移していることから生産増が続いている。しかし、先行きは海外経済の減速が予想されており、今後は調整圧力が高まると予想される。

23日に発表された8月の失業率は、5.11%と前月(5.17%)から0.06p低下し、2009年9月をピークに12ヶ月連続で改善している。雇用者数も前月比+1.4万人と2009年8月以降13ヶ月連続で増加し、他方、失業者数は前月比▲0.7万人と2009年10月以降11ヶ月連続で減少している。生産の堅調を受け、製造業を中心に雇用拡大が続いているが、年末にかけては生産調整の影響が懸念されよう。なお、来年には中国本土とのE C F A(経済協力枠組み協定)発効による関税撤廃措置が実施されることから、生産や雇用は緩やかな改善が

続くであろう。

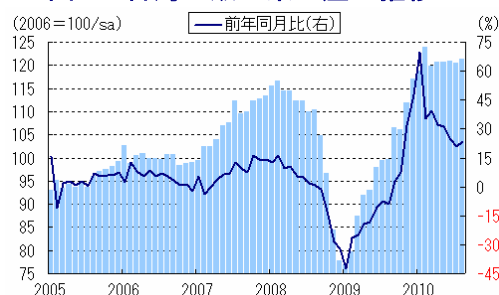
また、同日に発表された8月の商業販売額は、前年同月比+6.34%と前月（同+9.26%）から伸びが鈍化した。実質ベースでも前年同月比+3.90%と前月（同+4.89%）から伸びが鈍化し、前月比も▲0.40%と前月（同+0.85%）からマイナスに転じた。雇用環境の改善による個人消費の堅調や、外国人訪問者数の増加を背景に小売売上高は前月比+1.46%と5ヶ月連続で増加したものの、卸売上高が前月比▲1.12%と減少したことが影響した。今後は景気の減速感が個人消費を下押しすると懸念される。

図1 台湾 輸出受注の推移



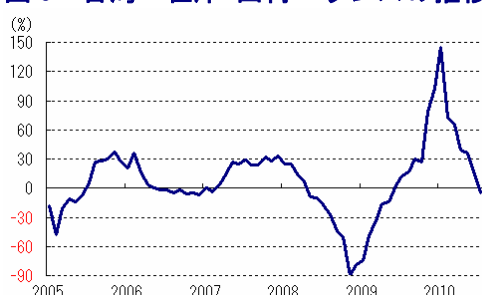
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 台湾 鉱工業生産の推移



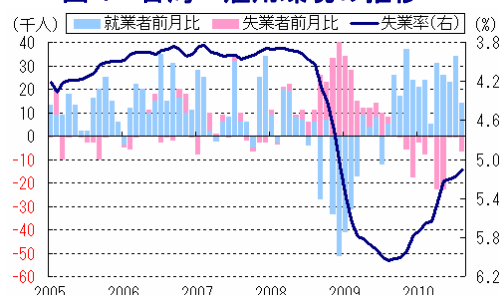
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 台湾 在庫・出荷バランスの推移(電子部品)



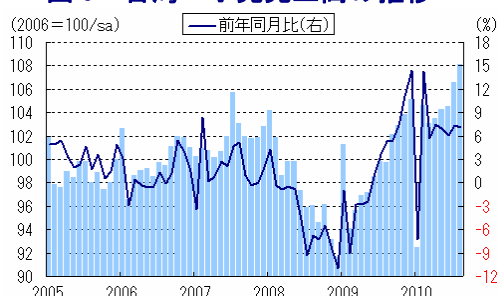
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 台湾 雇用環境の推移



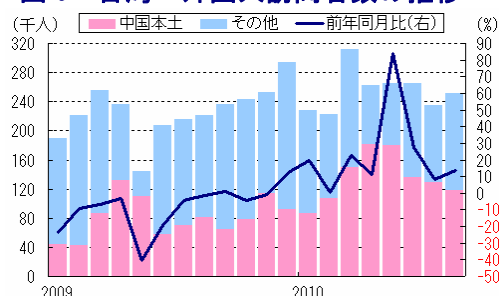
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図5 台湾 小売売上高の推移



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 台湾 外国人訪問者数の推移

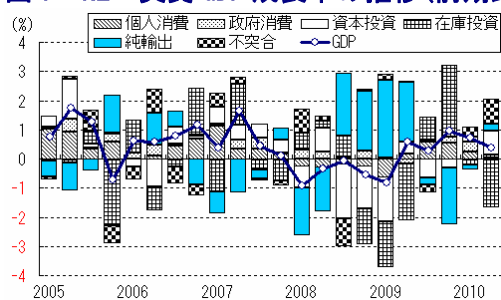


（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

## 【ニュージーランド】 ～内外需の回復感乏しく景気は減速。金融緩和の長期化は必至～

23日に発表された4-6月期の実質GDP成長率は前年同期比+1.9%と前期と同じ伸びとなった。前期比年率では+0.7%と5四半期連続でプラス成長となったものの、前期（同+2.2%）から減速した。新築住宅着工件数が底打ちするなど建設需要に回復感が出たため、資本投資は前期比+3.8%と前期（同+0.8%）から伸びが拡大したものの、世界経済の減速から輸出に頭打ち感が出ており、個人消費も頭打ちするなど内・外需の勢いに陰りがみられる。金融当局は16日、足元での景気減速懸念や、南部クライストチャーチ近郊で発生した大地震の復興に長期間を要する見通しから、2ヶ月連続で政策金利の据え置きを決定している。内需の回復感が乏しいことに加え、外需のけん引も期待しにくいことから、金融緩和状態は長期化しよう。

図7 NZ 実質 GDP 成長率の推移(前期比)



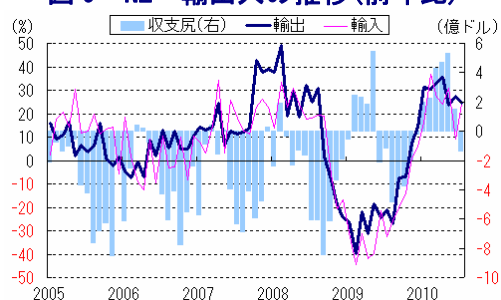
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図8 NZ 新規住宅着工件数の推移



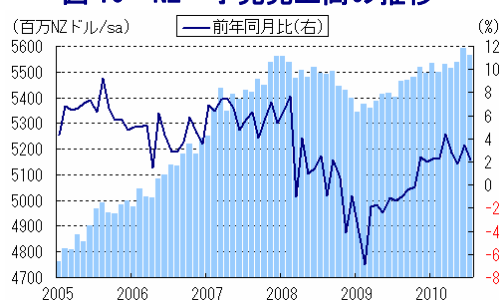
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図9 NZ 輸出入の推移(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図10 NZ 小売売上高の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図11 NZ 政策金利の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

### [シンガポール] ～物価上昇圧力が高まる中、金融当局はさらに金融引き締めを進める見通し～

23日に発表された8月の消費者物価は、前年同月比+3.3%と前月（同+3.1%）から加速した。前月比は+0.3%と前月（同+0.5%）から伸びが鈍化しており、原油価格の下落でエネルギー関連物価が前月比+0.7%と前月（同+1.4%）から伸び率が縮小した影響を受けた。しかし、世界的な穀物価格の上昇で食料品価格は上昇基調を強めており、海外資金の流入による過剰流動性も燃えることから、今後も物価上昇圧力が続くと予想される。金融当局は、通貨SGドルの実質的な切り上げ容認による金融引き締めに舵を切っているが、輸入物価抑制の観点から、今後は引き締め姿勢が一段と強まることが予想される。

24日に発表された8月の鉱工業生産は、前年同月比+8.1%と前月（同+9.9%）から減速し、前月比では▲6.3%と前月（同+1.5%）から減少に転じた。前月は前月比+7.4%増加していた医薬品などバイオ関連の生産が、8月には一転して同▲31.5%も縮小したことが影響した。なお、同国の実質GDP成長率は1-3月期に前期比年率+45.7%、4-6月期も同+24.0%と潜在成長率を大きく上回る拡大が続いてきたが、今後は世界経済の減速により調整は避けられず、先行きの生産にも下押し圧力が掛かり易い状況が続くであろう。

図 12 SG 消費者物価の推移(前年比)

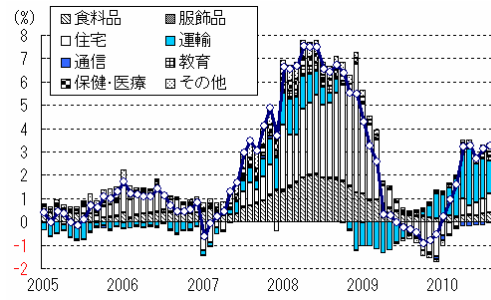
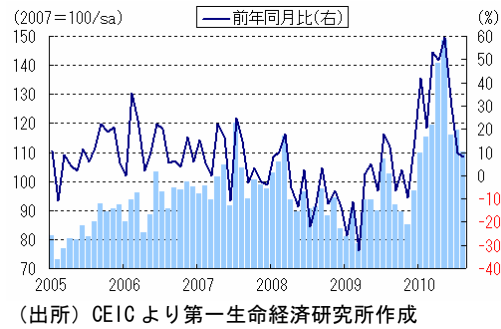


図 13 SG 為替相場の推移



図 14 SG 鉱工業生産の推移



以 上